

「指導と評価の一体化」のための

学習評価に関する参考資料（小学校 理科）の活用ガイド

本ガイドは国立教育政策研究所の参考資料をもとに、先生方が授業を行うに当たり検討する、指導と評価の計画立案の参考となるよう、神奈川県教育委員会・市町村教育委員会の指導主事の協働で作成したものです。

○掲載項目（事例4）

- 1 単元目標
- 2 単元の評価規準
- 3 指導と評価の計画
（☆つながりのある単元（「植物の発芽、成長、結実」）との関連）
- 4 観点別学習状況評価の進め方

「主体的に学習に取り組む態度」

（1）評価規準 （2）評価の方法と児童を見取る際の主なポイント （3）指導と評価の実際

☆☆「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

掲載事例以外の単元でも、本ガイドに掲載されたポイントを参考に、日々の学習指導と評価の充実に向けた授業改善に努めましょう！

○活用ガイドのポイント

- ・観点別学習状況評価の進め方を詳しく解説（1～4）
- ・事例における学習指導と学習評価のつながりを詳しく解説（4）
- ・評価の例を詳しく解説（4）
- ・振り返りの視点からの「主体的に学習に取り組む態度」の評価について解説（☆☆）

小学校 理科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P70～77

理科 事例 4

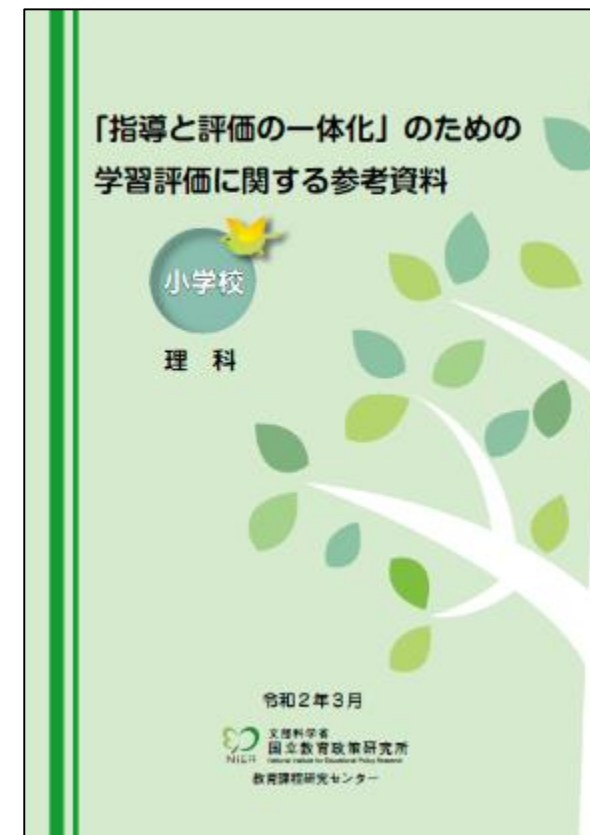
キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価（単元を越えた長期的な視点での評価）

単元名
「動物の誕生」

内容のまとめり
第5学年B （1）「植物の発芽、成長、結実」 （2）「動物の誕生」

1 単元の目標

魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて、動物の発生や成長を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

2 (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①魚には雌雄があり，生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえることを理解している。</p> <p>②人は，母体内で成長して生まれることを理解している。</p> <p>③動物の発生や成長について，観察，実験などの目的に応じて，器具や機器などを選択し，正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p>	<p>①動物の発生や成長について，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決している。</p> <p>②動物の発生や成長について，観察，実験などから得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。</p>	<p>①動物の発生や成長についての事物・現象に進んで関わり，粘り強く，他者と関わりながら問題解決しようとしている。</p> <p>②動物の発生や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>

「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の文末は「～している。」、「主体的に学習に取り組む態度」については「～しようとしている」となっていることに留意。

※作成手順は「第2編「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順(P25～31)」「第3編 単元ごとの学習評価について 第1章「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成(P35～43)」を参考にしてください。

2 (2) つながりのある単元（「植物の発芽、成長、結実」）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①植物は、種子の中の養分を基にして発芽することを理解している。</p> <p>②植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していることを理解している。</p> <p>③植物の成長には、日光や肥料などが関係していることを理解している。</p> <p>④花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができることを理解している。</p> <p>⑤植物の育ち方について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p>	<p>①植物の育ち方について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>②植物の育ち方について、観察、実験などから得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>①植物の育ち方についての事象・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</p> <p>②植物の育ち方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>

「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の文末は「～している。」、「主体的に学習に取り組む態度」については「～しようとしている」となっていることに留意。

※作成手順は「第2編「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順(P25~31)」「第3編 単元ごとの学習評価について 第1章「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成(P35~43)」を参考にしてください。

3 (1) 指導と評価の計画 (9時間)

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	○学校ビオトープに行き、そこにいる生き物を観察する。	知		知識・技能①/【行動観察・発言分析】
2	○教室でメダカを飼育するために解決したいことについて話し合う。	思		思考・判断・表現①/【発言分析】
3	○メダカが卵を産む環境をつくるために、雌雄の見分け方について問題を見だし、資料を基にメダカの雌雄の違いを調べ、まとめる。	知		知識・技能①/【行動観察・記述分析】
4	○前時の学習を振り返り、メダカの雄と雌を選び取り、飼育用の水槽に入れる。 ○メダカを飼育するための水槽内の環境について調べ、飼育準備を整える。	態	○	主体的に学習に取り組む態度②/ 【行動観察・記述分析】 魚の発生について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。
5	○各グループで育てているメダカが産んだ卵の様子を比較し、その違いから問題を見いだす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">問題：メダカの卵は、どのように成長するのだろうか。</div> ○卵内の成長過程について予想し、解決方法を考える。	思	○	思考・判断・表現①/ 【発言分析・記述分析】
6	○実体顕微鏡の使い方を確認する。 ○自分のグループの卵の特徴について観察し、記録する。	知	○	知識・技能③/【行動分析・記録分析】

※ (2) つながりのある単元 (「植物の発芽、成長、結実」) の指導と評価の計画については、次スライド及びP72~P73を参考にしてください。

第7時の「主体的に学習に取り組む態度①」の評価の具体例を示していきます。

7	○前時の学習を振り返り、解決する問題を確認する。 ○予想した成長過程を振り返りながら、自分が観察している卵が、前回と比べてどのような変化をしているかについて考える。 ○自分の卵と他のグループの卵やインゲンマメの成長とを比較しながら、その特徴について観察し、記録する。	態	○	主体的に学習に取り組む態度①/ 【行動観察・記述分析】 魚の成長についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わり、自分の考えを見直しながら、問題解決しようとしているかを評価する。
8	○これまでの観察記録を基に、メダカの卵の成長過程について考察し、結論を導きだす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">結論：メダカの卵の中では、目や心ぞろりができるなど、様子が変化している。</div>	思	○	思考・判断・表現②/ 【発言分析・記述分析】
9	○これまでの学習を振り返り、植物とメダカの成長過程についての差異点や共通点について考える。	知態	○	知識・技能①/【発言分析・記述分析】 主体的に学習に取り組む態度②/ 【発言分析・記述分析】 植物や魚の成長について学んだことを、学習や生活に生かそうとしているかを評価する。

評価の計画を立てることの重要性について (P16)

学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である。その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取ることになる。そのためには、いつ、どのような方法で、児童生徒について観点別学習状況の評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが引き続き大切である。

毎時間児童生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではないことから、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場を精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が一層重要になる。

☆ つながりのある単元（「植物の発芽、成長、結実」）との関連

第5学年「植物の発芽、成長、結実」(第4時)

4	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果を整理し、発芽するために必要なことをまとめる。 ○学習を振り返り、次時を見通す。 	態	主体的に学習に取り組む態度①/ 【発言分析・記述分析】 ・植物の発芽条件についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者
---	--	---	---

重点: 児童の学習状況を確認する際、重点とする観点
 知: 「知識・技能」
 思: 「思考・判断・表現」
 態: 「主体的に学習に取り組む態度」

【教師がポイントとした指導の例】

- 児童が目的をもち、自然の事物・現象とより一層関わるができるよう、観察の視点や方法を明確にすること。
- 児童が自分の考えを見直しながら学習を進めたり、継続的に観察したりすることのよさに気付くことができるよう、適切な助言や価値付けを行うこと。



第5学年「動物の誕生」(第7時)

7	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返り、解決する問題を確認する。 ○予想した成長過程を振り返りながら、自分が観察している卵が、前回と比べてどのような変化をしているかについて考える。 ○自分の卵と他のグループの卵やインゲンマメの成長とを比較しながら、その特徴について観察し、記録する。 	態	主体的に学習に取り組む態度①/ 【行動観察・記述分析】 ・魚の成長についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わり、自分の考えを見直しながら、問題解決しようとしているかを評価する。
---	---	---	---

記録: ○は、備考に記入されている評価規準に照らして、児童全員の学習状況を記録に残す場面

3 (3) 長期的な視点で指導（評価）を行う際の留意点

「主体的に学習に取り組む態度」の育成においては、児童一人一人が自然の事物・現象に継続的に関わる事が非常に重要である。そのため、授業内外において、児童一人一人の行動の意図を問うたり、価値付けしたりしながら、児童が自らの学習状況や自分の成長に気付くことができるようにすることが大切である。そこで、授業内外で見られた児童の姿や発言等を累積・整理し、長期的な視点で指導（評価）できるようにする方法として、次のような例を挙げる。

《児童名簿に学習状況を記録する》

毎時間設定する評価規準に即して、児童一人一人の学習状況を、児童名簿に記録する。例えば、右に示した表の第1時～3時のように、特徴的な児童の学習状況を確認して、児童の学習改善や教師の指導改善に生かす場面であれば、学習のねらいを十分達成できている児童には○、指導を要すると確認した児童には△を付けておき、必要に応じて児童の様子や次時以降に必要と考えられる教師の支援の記録を残しておく。そして、単元における観点ごとの総括的評価を行う際の参考資料とする。

また、第4, 6, 7時のように、児童全員の学習状況を記録に残す場面であれば、「十分満足できる」児童にはA, 「おおむね満足できる」児童にはB, 「努力を要する」児童にはCを付けておく。その際も、児童の様子を記録しておく。このような累積・整理を基に、単元や学期末の総括的評価を行うようにする。このことにより、児童の学習評価はもちろんのこと、教師の指導改善や支援が必要な児童に対する手立ての検討等にも役立つと考える。

【児童の姿の累積・整理の工夫例（「魚の誕生」を例に）】

番号	氏名	5/13	5/15	5/20	5/24	5/30	6/4	6/11
		第1時 知・技	第2時 思	第3時 知・技	第4時 態	第5時 思	第6時 知・技	第7時 態
1			○		B	A	B	A(他者)
2		○			A(ノート)	B	A(意味○)	A(修正)
3			○	△(視点)	B	A	B	B

メダカの雌雄を見分けられていなかったため、教師が視点を明確にする働きかけを行ったことの記録

前時の学習で習得した雌雄を見分けるポイントを確認、ノートと照らし合わせながら雌雄を選択していた状況の記録

【児童の学習状況を確認する場面】
評価規準に即して、特徴的な児童の学習状況を確認する。
※全員ではなく何人が選んで確認する

【児童の学習状況を記録する場面】
評価規準に即して、児童全員の学習状況を記録する。

学習状況を累積・整理し、教師の指導改善、児童の学習改善に生かす！

4 観点別学習状況評価の進め方

(1) 評価規準「主体的に学習に取り組む態度①」

・魚の発生や成長についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。

語尾に注目！
→単に「している」ではない！

(2) 評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

・メダカの発生や成長の様子を観察する活動の中で、メダカに進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているかを、行動観察や記述分析などの方法で評価する。

児童を見取る際の主なポイント

- 自然の事物・現象に進んで関わろうとしているか。
 - ・自分が育てているメダカや卵の様子を継続観察する中で、日々の変化に喜びを感じたり、必要な世話をしたりしながら、愛着をもってメダカや卵に関わろうとしているか。
- 自然の事物・現象についての問題を、粘り強く解決しようとしているか。
 - ・メダカの卵の様子を、実体顕微鏡等を用いて継続観察し、その変化を記録したり、友達の前でメダカの卵の様子と比較したりしながら、卵の成長過程の特徴を捉えようとしているか。
- 他者と関わる中で、自分の考えを見直そうとしながら問題解決しようとしているか。
 - ・メダカの卵の成長過程について、学習前や予想の段階での自分の考えや方法を振り返り、観察結果や友達との交流を基に見直そうとしているか。

評価規準を基に、どのような児童の姿を見取るかを具体的にイメージしておくことが重要

【単元の評価規準】

- 主体的に学習に取り組む態度
- ・動物の発生や成長についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。
 - ・動物の発生や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「植物の発芽、成長、結実」(つながりのある単元)

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第4時の授業の概要

- ・第4時は、特徴的な児童の学習状況を確認し、児童の学習改善や教師の指導改善に生かす場面とした。
- ・児童は、学校ビオトープの花壇や畑で、花や野菜を育て、学校ビオトープを充実させたいという思いをもった。
- ・そこで、植物が発芽するために必要な条件を調べるために、これまで栽培経験のあるアサガオ、トマト、ホウセンカ、ヘチマなどの植物から2種類を選び、各グループが考えた方法で実験を始めた。
- ・本時は、それによって得られた実験結果を整理し、それぞれの植物が発芽するために必要である条件について考察するものの、各グループで育てている植物の種類や育て方が異なるため、結論を導きだすことができず、改善策を考
えようとする時間である。

② 実際の児童の姿

ア 特徴的な児童の学習状況を確認した例(A児)

【学習状況の確認場面】

- ・授業で発芽の様子を観察する際、他のグループの友達と発芽の様子を確認するなど、他者と関わりながら問題を解決しようとする姿が見られた。
- ・結論を導きだすことができず、改善策を考える際には、実験方法の問題点について友達と話し合いながら、実験方法を見直そうとしていた。
- ・このようにA児は、植物の発芽について友達と関わりながら、問題を解決しようとしていることが分かる。しかし、水やりなどの世話をグループの友達に依頼することも多く、実験中の植物の日光のあたり具合や水の状態などを自分で把握することについては、不十分な状況であると確認した。

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「植物の発芽、成長、結実」(つながりのある単元)

【教師の指導】

・第4時におけるA児の姿から、A児が日々少しずつ変化していく植物をはじめとした生物の成長過程を継続的に観察することを通して、より多くの事実を得ることにより、生物の成長についてのより妥当な考えをつくりだそうとすることができるようになっていきたいと考えた。

・その際、植物や動物の成長過程を固有のものとして捉えるのではなく、共通性・多様性という視点で捉えながら、生物を観察し続けたり、成長の特徴を理解したりする姿を求めていきたいと考えた。

・教師は、「植物の発芽、成長、結実」の単元だけでなく、「動物の誕生」の単元も含めた長期的な視点で指導を行う中で、A児に対して助言したり、価値付けたりしていくことにした。その際、次の2点をポイントとして指導を行った。

○ 児童が目的をもち、自然の事物・現象とより一層関わることができるよう、観察の視点や方法を明確にすること。

○ 児童が自分の考えを見直しながら学習を進めたり、継続的に観察したりすることのよさに気付くことができるよう、適切な助言や価値付けを行うこと。

学習状況の観察から、
児童の学習改善のポ
イントを具体化

理科の見方・考え
方を意識

指導の明確化
(教師の指導改善)

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「魚の誕生」(本単元)

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第7時の授業の概要

【第7時に至るまでの概要】(※抜粋)

- ・植物(インゲンマメ)の成長条件を調べながら「魚の誕生」の学習に入った。
- ・メダカの卵が産まれたら、グループで手分けして管理することができるよう、児童にフィルムケースや透明カップを用意したり、児童一人一人が自分の観察カードを累積できる「メダカの卵アルバム」を教室に置いたりするなどの観察の方法を示し、授業内だけでなく、授業外でも観察や記録ができるようにした。
- ・各グループのメダカが卵を産み始めたことをきっかけに、「魚の誕生」の第5時では、メダカの卵がどのような成長過程で孵化するかについて予想した。児童は、これまでの動物の飼育経験や、インゲンマメの栽培で獲得した知識などを基に、「インゲンマメも子葉の養分で大きくなったから、メダカの卵の中にも、メダカが成長するための栄養があるはずだよ」などと、自分なりの予想をもつことができた。
- ・A児は、自分のグループのメダカが初めて産んだ卵を管理する役割を担い、休み時間などの授業外の時間に、自分が管理している卵を観察し続けていた。
- ・やがてA児は卵に変化があると、教師や友達に卵の様子について報告するようになった。また、友達が卵の中で子メダカが動く様子や孵化する瞬間などを観察することができたという事実を知ると、A児は「わたしも見てみたい」と、より頻繁に自分が管理している卵の観察を行い、カードに記録する姿が見られたので、教師はA児の学習への取り組み方を価値付けた。
- ・このように、教師や周囲の児童と卵の成長の様子について対話が生まれることで、A児は自分が観察している卵を継続的に観察していく必要感をもったり、友達と情報交換をすると新たな視点を得られたことを感じたりしている様子であった。

単元構成の工夫

教材研究

学習内容を関係付けている児童の姿

児童の変容

児童の変容を見取り、声かけ等による自己肯定感の醸成

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「魚の誕生」(本単元)

【第7時の概要】

第7時は、児童全員の「**主体的に学習に取り組む態度①**」の学習状況を記録に残す場面として位置付けた。本時は、前時(第6時)に引き続き、児童一人一人が飼育しているメダカの卵の様子について、実体顕微鏡を用いて観察したり、友達と観察結果の交流をしたりしながら、卵に見られる変化を確認する中で、卵の成長過程を予想したときの自分の考えを振り返り、見直そうとする時間である。

② 実際の児童の姿

ア「十分満足できる」状況と評価した例(A児)

【本時における教師の指導】

A児がメダカの卵に進んで関わりながら、成長過程を追究することができるよう、教師はA児の主体的に学習に取り組む姿を長期的に見取ってきた。そして、A児をはじめとした児童一人一人がメダカの卵の観察を通して、その成長過程に対しての自分の考えを整理したり、修正したりすることができるよう、前時までの卵の様子との違いに着目して観察するよう言葉掛けしたり、予想した第4時の板書を見ることができるようにしたりした。

振り返ったり、見直したりするために...

児童が自らの学習活動の振り返りや見直しができるような工夫を授業の中で行っている！

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「魚の誕生」(本単元)

② 実際の子どもの姿

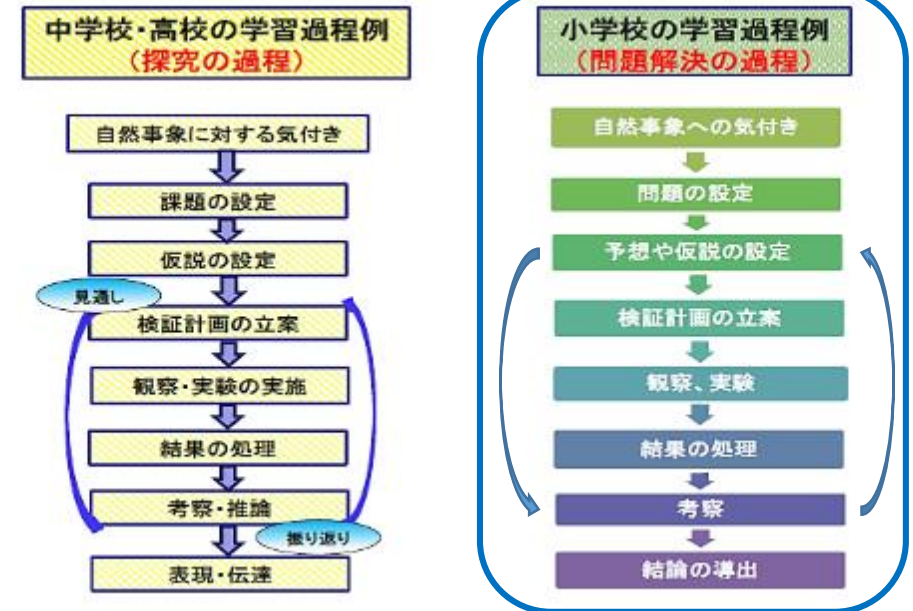
ア「十分満足できる」状況と評価した例(A児)

【学習状況の評価場面】

観察を進める中でA児は、「思っていたのとちょっと違う」とつぶやいた。「どこが違うの」という友達からの質問に、「目が先にできているよ。みんなの予想と違うよね」と言い、モニターに映った板書を見ながら友達と「わたしの卵、今この写真に近いな。わたしの予想、ここが違っていただけかも」と話し、自分の考えを修正していた。

このA児の発言や姿から、メダカの成長過程に対してより妥当な考えをつくりだすために、友達と話し合ったことやこれまで継続的に観察して得られた複数の結果を基に、自分の考えを振り返り、修正していることが伺えた。

理科で重視する「探究の過程(中学校・高校)」と「問題解決の過程(小学校)」



「探究の過程」も「問題解決の過程」も基本的には同じ流れである。

見直し・振り返りを意識した問題解決の過程が児童の資質・能力の育成には重要です！(小・中・高の基本的考えは同じ)

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「魚の誕生」(本単元)

② 実際の児童の姿

ア「十分満足できる」状況と評価した例(A児)

【学習状況の評価場面】

本時の終末、学習で感じたことや問題解決の過程における自分や友達の学び方のよさ、疑問に思ったことなどを振り返る場面において、A児は右のような記述をしていた。この記述から、A児はメダカの卵の成長の様子を継続的に観察することで、多くの発見があることに気づき、継続的に観察することのよさを感じるとともに、それを植物(インゲンマメ)の成長の観察にも生かそうとしていることが分かる。これらのA児の態度やノート記述から、「十分満足できる」と評価した。

メダカの卵をず、と観察して、
ると、少しずつ変化があ、てとて
もおもしろいです。たくさん観察
すること、て大切だと感じました。
インゲンマメも同じように少しず
つ変化していると思、たので、こ
れからはちゃんと観察して、どん
なふうにな大きくなるかを見たいで
す。

〈A児のノート記述〉

記述分析だけではなく、これまでのA児の学習状況の観察や行動分析を基に、総合的に判断し、評価していることに留意する必要がある。

△書けていないから評価できない、評価が難しいではなく、
学習状況のフィードバックや振り返りの視点の明確化等を行うことで、○児童自らが適切に学習を振り返ることができるような指導の工夫が必要。

4 観点別学習状況評価の進め方

(3) 指導と評価の実際…「魚の誕生」(本単元)

② 実際の児童の姿

ア「十分満足できる」状況と評価した例(A児)

【A児の変容】

植物の発芽条件を調べる際には、授業内だけの観察にとどまっていたA児であったが、「魚の誕生」の学習の中で、対象を継続的に観察することのよさを感じたことにより、メダカの卵やインゲンマメがどのように成長するかを見通し、その過程を丁寧に捉えていこうと、粘り強く、友達と共に観察し続けるようになっていった。

○「命のバトンをつなぐところは同じだ」

本事例では、単元を越えた長期的な視点で学習を行うことで、A児のみならず、インゲンマメもメダカも同じように「生きている」ことに気付き、生命を尊重する態度が育成され、生物を大切にしていこうとする姿が多く見られるようになった。教師は、このような姿のよさを見取っていくことで、教科の目標に示した「学びに向かう力、人間性等」を涵養していくことが大切である。

メダカも植物も、養分のもらい方、うまれるまでの時間、
いろいろちがうところはあるけれど、最後に次の子どもたちに命の
バトンをつなぐところは同じだと思った。植物、メダカ、いろ
いろ調べていくと、接点がたくさんできます。理科は、そんな
思いにさせてくれます。この授業をやてよかったです。

「命のバトン」という表現が、とても好きですね。植物やメダカの
同じところやちがうところを見つけ、それらに対して感動できる
気持ちをこれからも大切にしていこう。

〈授業終末に書いた児童の振り返りの記述〉

丁寧な「個人内評価」
を行うことで、「学びに
向かう力、人間性等」
を涵養しましょう！

☆☆「主体的に学習に取り組む態度」の評価では...

○例えば、**単元や授業（観察，実験など）の中で「試行錯誤した学習の状況を振り返る場面」**を設定することが考えられます。

P9～10ページ参照

○その際、①粘り強く学習に取り組む態度

②①の中で、自ら学習を調整しようとする態度

の2つの側面から評価する必要があり、それらを評価できる「**課題**」を設定しましょう。

何を見取りたい？

△今回の実験を振り返りましょう。

➤ 客観的な評価ができるように、

ワークシート等の中に振り返りの視点を入れておくことが考えられます。

見取りたいポイントを示す！

○「～の視点で」学習を振り返りましょう。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価例

○振り返りの視点を入れた例

(中学校理科: 参考資料P64 振り返りシートの一部)

振り返りシートの一部

1 「どのような知識及び技能を活用したか」

(この時間の活動について、課題を説明するためにあなたが手がかりにしたことや意識したことなど)

2 「誰とどのような対話をしたか」

- ・自分の考え
- ・班で話し合った後の考え

3 「何に気付いたか」

(課題を設定し解決する学習を行い、大切だと感じたことや学習を進める上で気付いたポイントなど)

小・中・高の評価についての考え方は同じ！
他校種の資料も参考にしましょう！

(高校理科: 生物基礎 参考資料P95 ワークシートの課題例)

〈ワークシートの課題例〉

体内環境の維持の仕組みについて、今までの学習を振り返って、次の①と②に答えよ。

- ① 分からなかったこと、あるいは、新たに疑問に思ったことは何か。また、それらをどのように解決したか。
- ② 次の単元での学習に向けて、自分の学習方法について感じた課題は何か。また、それをどのように改善していくか。

その他の単元や授業(観察、実験など)では、どのような振り返りの視点が考えられるでしょうか？

示されている例を参考に、今後の単元計画や評価計画の作成に生かしていきましょう！